

## インターバンクの声（2016年9月29日）

米連邦準備制度理事会 (FRB) による9月の利上げは見送られたことで、円相場もいよいよ本格的に100円割れを狙いに行くのではと思われたが、この一週間程100円台前半でドル売りが止まっている。欧州の主要銀行の経営危機説から混乱していた欧州株や欧州債券市場も、渦中の銀行が一部事業の売却を発表したことで落ち着きを取り戻している。ドイツ政府が支援に動くとも伝わっているが、政府はこの情報を否定したようで、真偽のほどは定かでない。イエレン FRB 議長が議会証言で「連邦公開市場委員会 (FOMC) の過半数は、年内の利上げが必要になりそうだと判断している」と述べたが、意外にも議長発言への市場の反応は限定的だった。昨夜、何よりも今後の市場の反応に注目すべきニュースだったのが、非公式会合ながら石油輸出国機構 (OPEC) が減産で合意したとの報道だ。過去何度も減産への合意が期待されたが、サウジアラビアとイランとの対立で今回も期待は小さかった。あくまでも非公式会合での合意で、11月の総会で本決まりになるかどうかは不透明な部分も残っている。足元ではリスク回避姿勢が少し後退しているが、反動には注意したい。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。